大学院教育における社会言語学と看護学との学際性に関する研究

保健福祉学部 看護学科　教授　関根 紳太郎　Shintaro, SEKINE

研究領域 社会言語学、メディア英語学　**キーワード** テクスト、ディスコース、コーパス

共同研究者 堀 智子（順天堂大学スポーツ健康科学部）

保健福祉学部棟３階 6307号室　Mail: sekine@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

●本研究では、現実の「世界」は、テクストと呼ばれる記号的な意味をもったもの（言葉など）によって秩序づけられ、＜世界＞として置き換えられていると考えます。
また、そのテクストが用いられる場（＝社会文化的背景）に影響されながら、まとまりをもったディスコースとして、その場に特有の意味が醸成されていると捉えます。そして、ディスコースの不断の活動（コミュニケーション）によって社会は形成されていると考えます。そこで、本研究では、本学看護学専攻6名との共著「看護学および社会福祉学領域におけるコーパス言語学的アプローチの基礎研究」、岡山県立大学保健福祉学部紀要第26巻、pp.157-169.（2019）を先行研究として、2020年度の第31回日本医学看護学教育学会学術学会（ウェブ開催）において、本学看護学専攻2名と共同でオンデマンド発表した「コーパスを活用した看護保健領域ディスコースに関する分析と考察」の研究成果を再度精査し、看護保健実践における社会言語学的アプローチの学際性および親和性を提示することをねらいとします。
●本研究では、研究キーワードを内包する言葉のデータベース（コーパス）を、言葉によって再現される現実世界と近似的な＜世界＞として見立てます。そして、言語情報処理を施すことで抽出される特徴語および関連語を含むある一定の意味をもつ言葉のかたまりに対してディスコース分析を試みます。
●本研究では、日英コーパスを比較検証しながら、（統計的にフィルタリングされた）特徴語と関連語を内包する看護保健領域ディスコースを検証することで、研究キーワードの意味の本質（＜世界＞の一端）を探求します。そして、看護保健領域における社会言語学的アプローチが、特にアンケート調査の自由記述欄などに内在する意味や概念の抽出に有効であるという点について実証的に考察し、学術的エビデンスを残します。

詳細はこちらのQRコードよりご確認ください。

看護技術の可視化とエビデンスの探求

保健福祉学部 看護学科　准教授　佐々木 新介　Shinsuke Sasaki

研究領域　基礎看護学　**キーワード**　可視化，超音波，サーモグラフィ

共同研究者　荻野哲也，市村美香（吉備国際大学）

保健福祉学部棟 4階 6404号室　Mail: s-sasaki@fhw.oka-pu.ac.jp　TEL/FAX: 0866-94-2171

研究内容

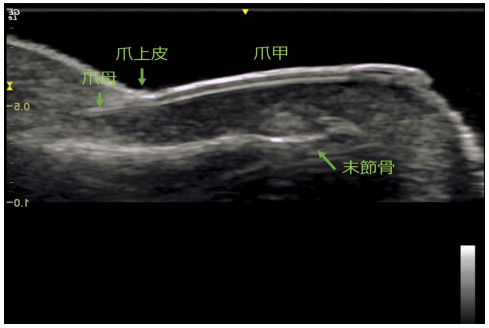
【特徴】
岡山県立大学の佐々木研究室は

①生体情報を分析　②看護援助の可視化（超音波診断装置 等を活用）
③新しい看護技術や援助用具の開発
などを目指して研究を続けています！

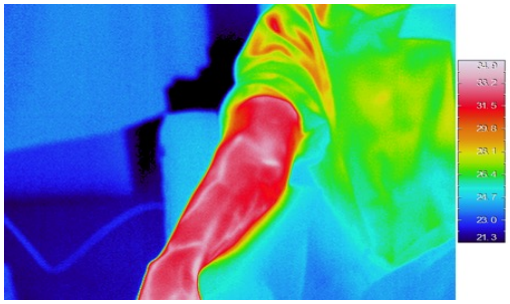
【大学院生が実施した具体的な研究テーマ】
- **サーモグラフィ**を用いたバスキュラーアクセス描出に関する探索的研究
- **腕時計型ウェアラブルデバイス**でのセルフモニタリングが地域住民の歩数と睡眠時間にもたらす効果
- **超音波診断装置**を用いた足趾の爪に関する基礎的検討
- 温熱刺激による**血管拡張**効果の比較
- マニキュアが**経皮的酸素飽和度**の測定値に及ぼす影響　など

この他にも，超音波やサーモグラフィ，レーザードップラー血流計，圧力計などを用いた生体情報を計測，様々な看護に関する研究を実施しています

研究室のHP　http://sasakilab.fhw.oka-pu.ac.jp/



超音波で観察した足趾の爪


サーモグラフィでの表在静脈の描出

静脈可視化装置を用いた表在静脈の描出

看護基礎教育に関する研究

保健福祉学部 看護学科　准教授　佐藤 美恵　Yoshie Sato

研究領域　看護教育学　**キーワード**　看護基礎教育

共同研究者　髙林範子、名越恵美、犬飼智子

保健福祉学部棟３階 6302号室　Mail: ysato@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

看護基礎教育をテーマとして、以下のような研究に取り組んでいます。

- 看護学生の主体的学習とオンライン教材活用との関連
- 看護技術学習用オンライン教材を用いた学習に対する学生の評価
- Audience Response System（クリッカー）を用いた双方向型授業

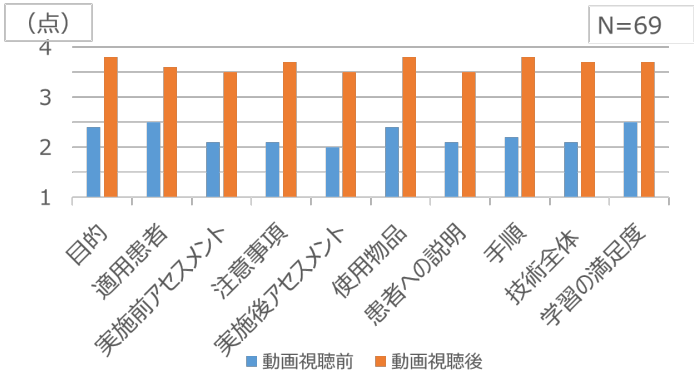
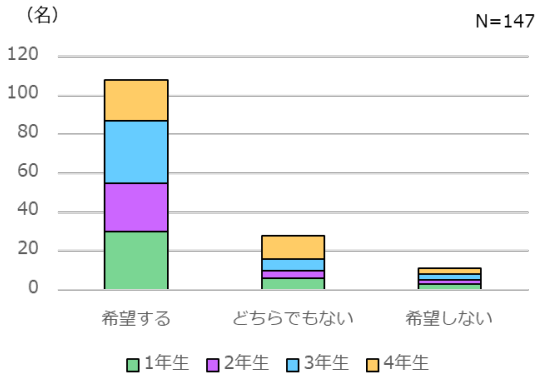


図1　動画視聴前後の理解度と満足度

- 女子大学生の月経前症候群（PMS）と日常生活習慣との関連
- 看護学生の臨地実習中のストレスとその対処法
- 臨地実習における看護学生の睡眠および食習慣と健康度との関連
- 看護学生のストレス緩和を目的としたお笑い動画視聴の効果
- 感染予防教育による看護師の感染予防への意識の変化



看護技術学習用オンライン教材の利用希望

糖尿病看護および抹消血流に関する研究

保健福祉学部 看護学科　教授　　住吉和子　　Kazuko Sumiyoshi

研究領域　成人看護学（慢性期）　**キーワード**　糖尿病看護，解決志向アプローチ

共同研究者　藤堂由里、日本糖尿病教育・看護学会研究推進委員

保健福祉学部棟４階 6407号室　　Mail: sumiyoshi@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

【糖尿病看護に関する研究】

１．面接技法に関する研究
糖尿病看護認定看護師の協力者とともに、「解決志向アプローチ」を用いた面接の効果の検証に取り組んでいます。

２．Covid-19の糖尿病看護への影響
日本糖尿病教育・看護学会の研究推進委員会で、病院の外来と入院における糖尿病看護への影響を全国の認定看護師を対象に調査し、結果を論文にしています。

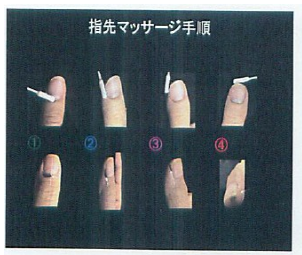
３．糖尿病初期教育の効果
糖尿病のの教育（初期教育）の効果とその在り方について、日本糖尿病教育・看護学会の研究推進委員会で、共同研究を行っています。

４．その他　　人工甘味料、血圧を下げる方法、みそ汁と血圧など

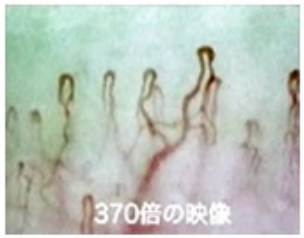
【末梢血流と健康に関する研究】

日本フットケア協会の室谷先生の指導の下、末梢血流を改善するための指先マッサージ、爪の切り方と健康への影響について明らかにしようと取り組んでいます。

綿棒を用いた指先マッサージ

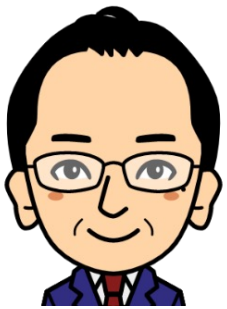


抹消血流の確認



健康知覚指標の開発

NO 質問項目	NO 質問項目
1.手の先が暖かい	9.気持ちが明るい
2.足の先が暖かい	10.頭がはっきりしている
3.足が軽い	11.活力がある
4.体がかるい	12.エネルギーがある
5.呼吸が楽である	13.良く眠れる
6.動くのが楽である	14.首がこっている
7.痛みがある	15.肩がこっている
8.気持ちが落ち着く	



新たな社会Society5.0を意識した医療・看護研究

保健福祉学部 看護学科　教授　喜多村真治　Shinji Kitamura

研究領域　成人看護学、臨床医学、人工知能学　**キーワード**　内科学、透析、AI/ICT

共同研究者　岡山大学病院、吉備医師会、高梁中央病院、倉敷スイートホスピタル、両備システムズ

保健福祉学部棟 4階 6410号室　Mail: kitamura@fhw.oka-pu.ac.jp　TEL/FAX: 0866-94-2175

研究内容

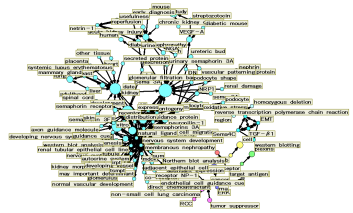
臨床医学の経験を基に、新たな医学・看護学・情報工学の融合を目指しています

主な研究内容は

①Society 5.0を意識した医療・看護・保健・福祉・介護の人工知能研究

・患者バイタルデータや生体センサー情報からビッグデータを収集し、患者感情を人工知能的予測から症状予測や寝たきり・言語障害の患者の感情予測できる研究を行います。

・chat GPT等を活用した人工知能看護師（AI-nurse）の開発を目指します。



②看護における内科学的管理に関わる研究

・看護・福祉・介護に内科的観点を取り込んだ新たな研究を行います。

・産業医の経験を基に、作業管理・作業環境管理・健康管理と看護研究を行います。

③慢性腎臓病・透析管理に関わる研究

・慢性疾患の腎臓病・透析医療の看護に関する研究を行います。

新たな社会Society5.0を意識した医療・看護の研究を一緒に頑張りましょう。

がん・心不全患者への緩和ケアと人材育成に関する研究

保健福祉学部 看護学科　　准教授　　名越　恵美　　Megumi, Nagoshi

研究領域　がん看護学，看護教育学　　**キーワード**　緩和ケア，職業的アイデンティティ

共同研究者　實金栄，難波峰子（関西福祉大学）,松本啓子（香川大学）

保健福祉学部棟4階 6402号室　　Mail: nagoshi@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

エンド・オブ・ライフ期は、１）災害や事故による突然死、２）がん、３）慢性心不全・呼吸不全といった非がん、４）虚弱高齢者等で異なる４つの軌跡があります。そこで、様々な軌跡の生老病死と向き合い、**その人らしく生ききるための看護**と苦痛を取り除くケアができる**人材育成**に関する研究・実践を行っています。

１）現任教育としてELNEC-J（The End-of-Life Nursing Education Japan)を毎年開催しています。
２）地域連携推進センター：エンドオブライフケア研究会で3か月に１回、Nsを対象に学習会を主催しています。緩和ケアについて語り合いましょう。
3）博士前期・後期課程の院生と毎月ゼミを開催し、研究の進捗状況を確認しながら、お互いに切磋琢磨しています。一緒にディスカッションを行い研究を深めていきましょう。

１．緩和ケアに関する研究：がんだけでなく、慢性疾患やクリティカル状況化での緩和ケアのあり方を探求してます。

２．看護教育に関する研究：レベルアップを図る臨床看護師・看護師長だけでなく、これからの看護を担う学生の臨床判断力・実践力のボトムアップを図るためにシミュレーション教育を活用しその効果を検証しています。
そして、看護師としてのアイデンティティ構築と就労継続に関する要因を明確化していきます。

3．がん看護に関する研究：AYA（若年成人）世代のがんサバイバーのセルフマネジメントや就業・学業支援を行うための方略を探求しています。がんサバイバーの情報探索行動のプロセスや養護教諭・教員の支援と連携について質的研究の手法を用いて内容を明らかにしています。また、高齢がん患者が、住み慣れた地域で療養生活を送るための地域の病院の在り方とそこで働く看護師の支援を探求しています。

思春期の性に関する健康支援、子育て支援

保健福祉学部 看護学科　准教授　岡﨑　愉加　Yuka Okazaki

研究領域 助産学・母性看護学　**キーワード** 思春期保健、子育て支援、性に関する女性の健康

共同研究者 渡邉久美（香川大）、山下亜矢子（鹿児島大）、山本登志子（栄養学科）
中越利佳（愛媛県立大）、川下菜穂子（新見公立大）

保健福祉学部棟３階 ６３０６号室　Mail: yukai@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

１．思春期の子育て支援

学校・医療・地域が連携した実践可能な思春期の性に関する子育て支援システムと具体的なプログラムの開発をめざしています。最初に家庭における性教育の実態や親が求めている支援等を明らかにして、養護教諭と助産師の2職種間連携を主軸とした支援システムモデルを作りました。それを用いて、考案した支援プログラムを中学校で実践し、縦断的に評価しました。現在は、地域の思春期子育て支援の現状やひとり親家庭における思春期の性に関する子育ての実態と必要な支援を明らかにするための研究に取り組んでいます。

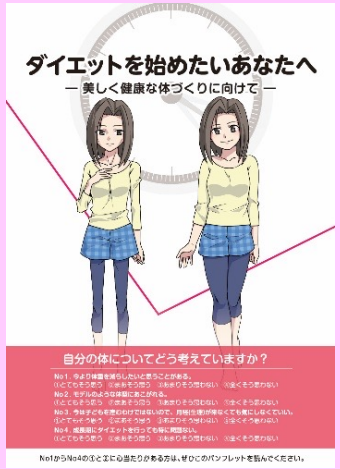
２．思春期の性に関する健康支援

「男子の性に関する悩み」「性的同意」「女性の生涯にわたる健康の視点からの月経教育」「摂食障害一次予防」などをテーマに研究し、その成果から、性教育教材等を作製したり、考案した性教育プログラムを高校で実践し評価しています。コミュニティ家族ケア研究会の代表として、多職種連携での研究活動をまとめ、成果は国内外で発表しています。

３．その他

「母乳に関する研究」「子宮頸がん予防に関する研究」「産後うつに関する研究」等にも取り組んでいます。

これまでの指導テーマは、博士前期課程では「低用量経口避妊薬（OC）の服用を継続することに関する成人女性の思い」、後期課程では「Health Action Process Approachによる20-30歳代女性の子宮頸がん検診の受診行動に関する基礎的研究」などがあります。



摂食障害
一次予防
パンフレット
（第1版）

月経に関するリーフレット

女性のライフステージに応じた健康支援

保健福祉学部 看護学科　准教授　三谷 明美　Akemi　Mitani

研究領域　母性看護学・助産学　**キーワード**　メンタルヘルス・地域における子育て支援

共同研究者

保健福祉学部棟 3階 6308号室　Mail: akemi_mitani@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

１．ベビーマッサージが母親役割取得過程に及ぼす影響に関する研究

ベビービクスをはじめとしたタッチケアは、母児双方に心理的側面、身体的側面の効果が期待できるとして導入する施設が増加しています。先行研究においては統一した実施形態やプログラムによる母親への効果について客観的な評価を行っている研究は少なく、研究者により結果のばらつきがあり、一定の見解は得られていません。そのため心理的効果に及ぼす影響を心理学的指標(POMS)、生化学的指(唾液コルチゾール濃度)などの側面から定量的に明らかにすることが重要でです。このように看護独自のケアの効果を科学的に検証することでメンタルヘルスや身体的ケアの一助につなげていきたいと考えています。

２．看護師教育・助産師教育

助産師学生に、分娩介助の経験数に応じてリフレクションを促す面接を行うことで助産師としてのアイデンティティ形成にどのような影響があるかを検討しています。リフレクション面接は、助産師教育だけでなく、看護教育や臨床での新人教育などにおいて、否定的・肯定的な感情を表出しながらも自己の感情を意識化し、課題や目標の明確化される可能性も示唆されることから、応用的な活用方法を検討していきたいと思います。

小児肥満に関する研究
不登校児童・生徒に対するICTを活用した支援に関する研究

保健福祉学部 看護学科　准教授　木村 真司　Shinji Kimura

研究領域　**小児看護学**　　**キーワード**　**小児看護、肥満、不登校支援、ICT**

共同研究者　森藤香奈子（長崎大）、小島令嗣（山梨大）、西垣佳織（聖路加国際大）、黒田紀子（札幌市立大）、石井隆大（久留米大）、大町太一（関西医科大）、福岡理英（島根大）、花木啓一（鳥取大）

保健福祉学部棟4階 6305号室　Mail: s-kimura@fhw.oka-pu.ac.jp

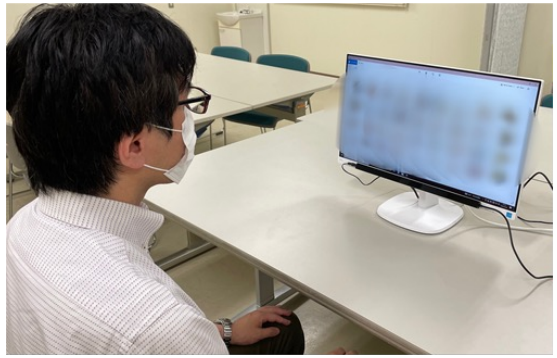
研究内容

1．小児肥満に関する研究

小児肥満が成人肥満にトラッキング（移行）するといわれており、早期介入が非常に重要です。しかし、小児では食行動の評価指標として今まで適切なものがなく、臨床現場での簡便な食行動評価の実施や結果の食事療法への応用がなされてきませんでした。そこで、小児の食行動評価を簡便に実施できる**「イラスト選択法」**を開発し、簡便にどこでも実施できるシステムも構築しました。

さらに、肥満発症に直接的に関連している小児の食物嗜好を明らかにするために、**小児の無意識下での食物嗜好を測定するため、アイトラッキング（eye-tracking；視線計測）による分析**を用いた調査法を開発中です。

小児自身の食行動・食物嗜好を明らかにすることにより、小児肥満の特性を考慮した食事指導へつなげていきたいと考えています。



アイトラッキング法を用いた調査の実際

2．世代間交流に関する研究

世代間交流の継続実施のため、オンラインで実施できる簡便な世代間交流プログラムを高齢者看護のスペシャリストとともに共同開発し、実施しています。

3．不登校児童・生徒に対するICTを活用した支援に関する研究

ICTを利用した不登校支援について、他大学と共同で研究をしています。

地域ケアにおける臨床倫理コンサルテーション

保健福祉学部 看護学科　　教授　　實金 栄　Sakae, Mikane

研究領域　老年看護学，地域・在宅看護学

キーワード　臨床倫理，エンドオブライフケア
ファシリテーション

共同研究者　井上かおり，名越恵美

保健福祉学部棟4階 6408号室　Mail: mikane@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

實金研究室では，地域で療養する人々がその人らしく生ききり，最善の死をむかえられるような医療・ケア提供につながる研究を行っています。最近の論文タイトルは以下の通りです。

- □ 看護師が認識する高齢末期心不全患者の心理的苦痛と看護実践，2023
- □ 地域包括ケア病棟看護師における高齢者の生活を支える看護実践のプロセス，2023
- □ ケアサイクルにある高齢者のストレングスとその活用感,援助者の関わりのQOLへの関連，2023
- □ 高齢入院患者に対するフレイル予防のための看護への関連要因，2023
- □ 終末期維持血液透析患者の医療・ケア方針の検討に関わる看護実践の関連要因の検討，2023
- □ 訪問看護師の精神健康と倫理的問題に対するストレス認知,Self- Compassion, Over-Involvementの離職意向への関連，2023

住み慣れた場で，その人らしい終生期を生きるために，Advance Care Planningやその実現を支えるための医療・ケアが必要となりますが，それらの選択において倫理的ジレンマを生じるような状況もあると思います。専門職だけでなく，ケアの担い手である家族や地域の人々ともに，その人にとっての生活の質，生ききることを支えるケアを考えていきたいと思っています。

認定エンドオブライフケア援助士（エンドオブライフケア協会），ホワイトボードミーティング®アドバンス認定講師，臨床倫理認定士（臨床倫理学会）として活動しています。特に，現在は臨床倫理を考える場面でファシリテーターとしてのスキル向上に着目しています。

虐待防止のための育児負担軽減と父親研究*，災害時保健活動**、人材育成

保健福祉学部 看護学科　教授　　森永　裕美子　　Yumiko　Morinaga

研究領域　公衆衛生看護学　**キーワード**　地域保健活動、人材育成，災害時保健活動

共同研究者　＊中板育美・佐藤睦子（武蔵野大学），＊＊倉敷市保健師・倉敷市社会福祉協議会

保健福祉学部棟３階 6304号室　　Mail: morinaga@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

1.乳幼児期の父親における虐待リスクアセスメント項目の開発

虐待予防対策として妊娠期からの切れ目ない支援が求められている。妊婦においては特定妊婦の定義とともに、支援対象とすべき判断基準となるリスクアセスメント項目が明確にされている。しかし昨今の虐待事例は、妊婦のパートナーの男性（以下、「父」という。）が関与する事例が増加し、家族のアセスメントの必要が生じ、特に父に関するリスクアセスメント項目の明確化は図れていないため、その開発を行っています。

２．災害時公衆衛生活動，被災者生活支援に関する調査報告

災害時と言っても、平常時の準備段階、平常時、災害直後、被災後と段階を追いながら、公衆衛生看護学活動は必要です。被災後の支援にか関わった支援員さんらの記録より抽出した内容から、保健師としての関わりのあり方はどうあるべきか、を検討しています。

起こってほしくない災害ですが、それでも起こった時に、住民さん、被災者により近くで寄り添って、明日の生きる力を持てるように、災害時の保健活動について考えています。

３．保健師の現任教育(人材育成）プログラムの開発

【大学院で一緒に学びましょう！】 保健師が関わること全般、あらゆる角度からの研究に対応しています。
地域組織活動、児童・高齢者虐待防止、地域づくり、生活習慣病予防（特定保健指導）、現任教育など

地域高齢者の見守り活動に関する研究、オンライン活用による社会的フレイル予防

保健福祉学部 看護学科　准教授　徳嶋 靖子　Yasuko Tokushima

研究領域　公衆衛生看護学　**キーワード**　地域高齢者　見守り活動　社会的フレイル　オンライン

共同研究者　谷村千華＊、大谷眞二＊、深田美香＊　（＊鳥取大学）

保健福祉学部棟 3階 6303号室　Mail: ytokushima@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

1. 地域高齢者の見守り活動に関する研究

地域高齢者の見守りに携わる方々（民生委員、在宅福祉員、地域包括支援センター、行政機関）を対象とした調査から、見守り活動の課題として、人材不足や一般住民の見守り活動に対する理解不足が等があがりました。人材不足の代替として、地域サロンの活用促進やオンライン活用に期待ができると考えています。

一般の地域住民の理解不足については、活動の意義を広く啓発することが必要であり、理解が広がることで、活動している方々の意欲の向上にもつながると考えています。

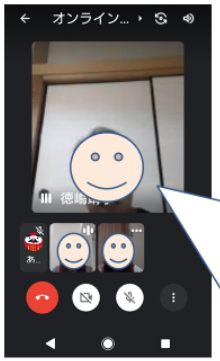
また、より多くの方の理解や協力が得るためには啓発媒体にも工夫が必要と考えます。

令和２年度　在宅福祉員さん調査報告リーフレット

2. オンライン活用による社会的フレイル予防

フレイル（虚弱）の始まりは社会とのつながりが減少することと言われています。近年、あらゆる分野でICT活用が進んでいます。地域サロン等の住民主体の地域活動においても、オンライン活用によって新しい社会参加、交流の場づくりが期待できます。そこで、オンラインを活用した社会的フレイル予防システムの開発に取り組み、その有効性を検証していきます。　右図は、コロナ禍で試行したオンライン家庭訪問の様子です。

ICT活用！
「オンライン で こんにちは」（オンライン家庭訪問）

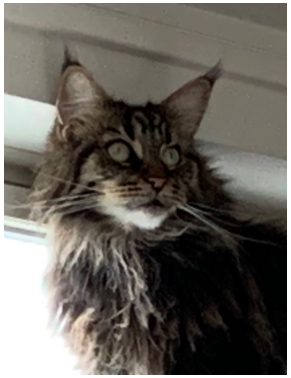


・コロナなので，マスクないと白い目で見られるし、買い物はちゃちゃっと済ませるようにしたり。
・インターネット、興味あります.
・国勢調査とかもオンラインでできるとか。

でも、

・手続きがインターネットでできるのは便利そうだけど、使ったことがないから、インターネットを使うまでの準備もよくわからない。
・詐欺とか心配
・死んだあとの契約解除とかで子どもや親戚を煩わせたくない。

・こんな風に若い人たちと話せる機会はほとんどないので、嬉しいです。また機会があったらお話ししましょう。
・いろいろ大変なこともあると思うけど頑張ってくださいね。



研究テーマ（精神障害者の地域生活支援、メンタルヘルスリテラシー獲得支援）

保健福祉学部 看護学科　准教授　井上幸子　Sachiko Inoue

研究領域　精神看護・精神保健
メンタルヘルス・疫学

キーワード　地域包括ケアシステム・地域移行支援
地域精神保健・メンタルヘルスリテラシー

保健福祉学部棟4階 6403号室　Mail: sinoue@fhw.oka-pu.ac.jp

研究内容

- メンタルヘルスを健康に保つために役立つ研究を実施します。
- また、臨床と地域のスムーズな連携に関して必要な研究を実施します。

現在進行中の研究テーマ
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に寄与する研究

精神障害者を地域で支援するための支援ネットワークの形成という視点で、地域資源について様々な角度から分析すること、また地域資源の課題や関わる専門職の役割について調査し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する要素を明らかにします。　他大学の研究者、精神科医、疫学者等の協力を得て共同研究を行なっています。

（量的研究を主としており、質的研究は行なっていません。）